

人口推計について

1. 人口推計の概要

■ 推計対象

平成25年から平成34年までの草津市全体の総人口(就学前人口を含む)

※参考データとして、小学校区別の推計を行う

■ 基礎データ

小学校区別住民基本台帳及び外国人登録人口

(H20.4.1現在～H24.4.1現在)

■ 算出方法

コーホート変化率法(H20年からH24までの5年の変化率を利用)

1-1. コーホート変化率法とは

■ 概要

住民基本台帳及び外国人登録人口を基礎として、一定期間のコーホート(1歳階級別人口)の変化率を計算し、各コーホートの変化率を乗じて将来の人口を算出する方法

■ コーホート変化率法による算出の流れ

① 各年齢(1歳区分)の変化率を算出

(例)
$$\frac{\text{平成 21 年 16 歳人口}}{\text{平成 20 年 15 歳人口}} = \text{平成 20 年} \sim \text{平成 21 年における 15 歳人口の変化率}$$

→同様に、平成20～平成24年までの各年について変化率を算出し、その平均値を採用

② 0歳児の推計人口を算出

※0歳児は出産女性の人口数により変動するため、変化率により推計値を求めない

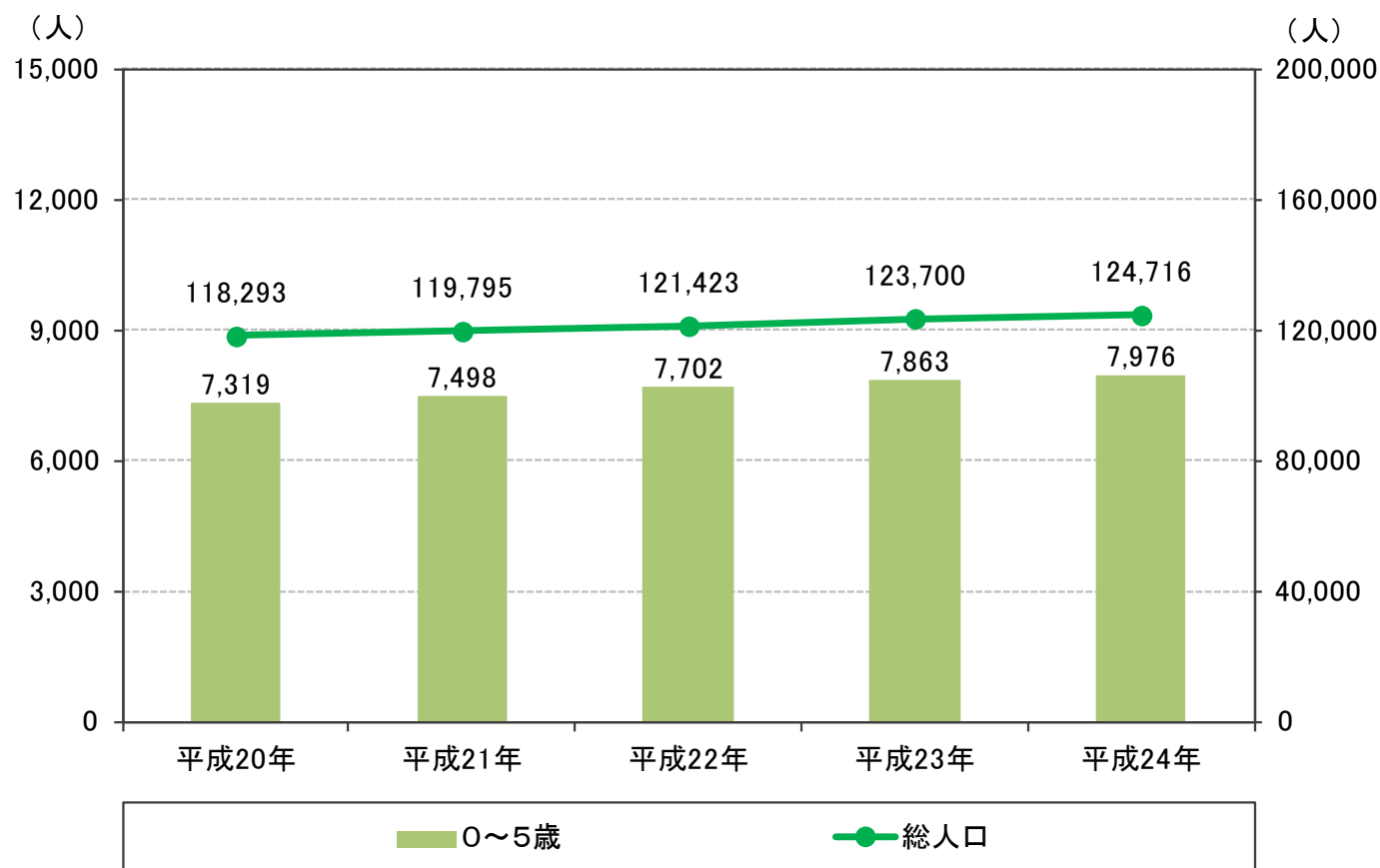
(例)
$$\text{平成 25 年の 0 歳児人口} = \frac{\text{0 歳児人口} \quad \text{※1}}{\text{25} \sim \text{44 歳女性人口}} \times \text{平成 25 年の 25} \sim \text{44 歳女性人口}$$

※1:平成20年～平成24年の平均値を算出

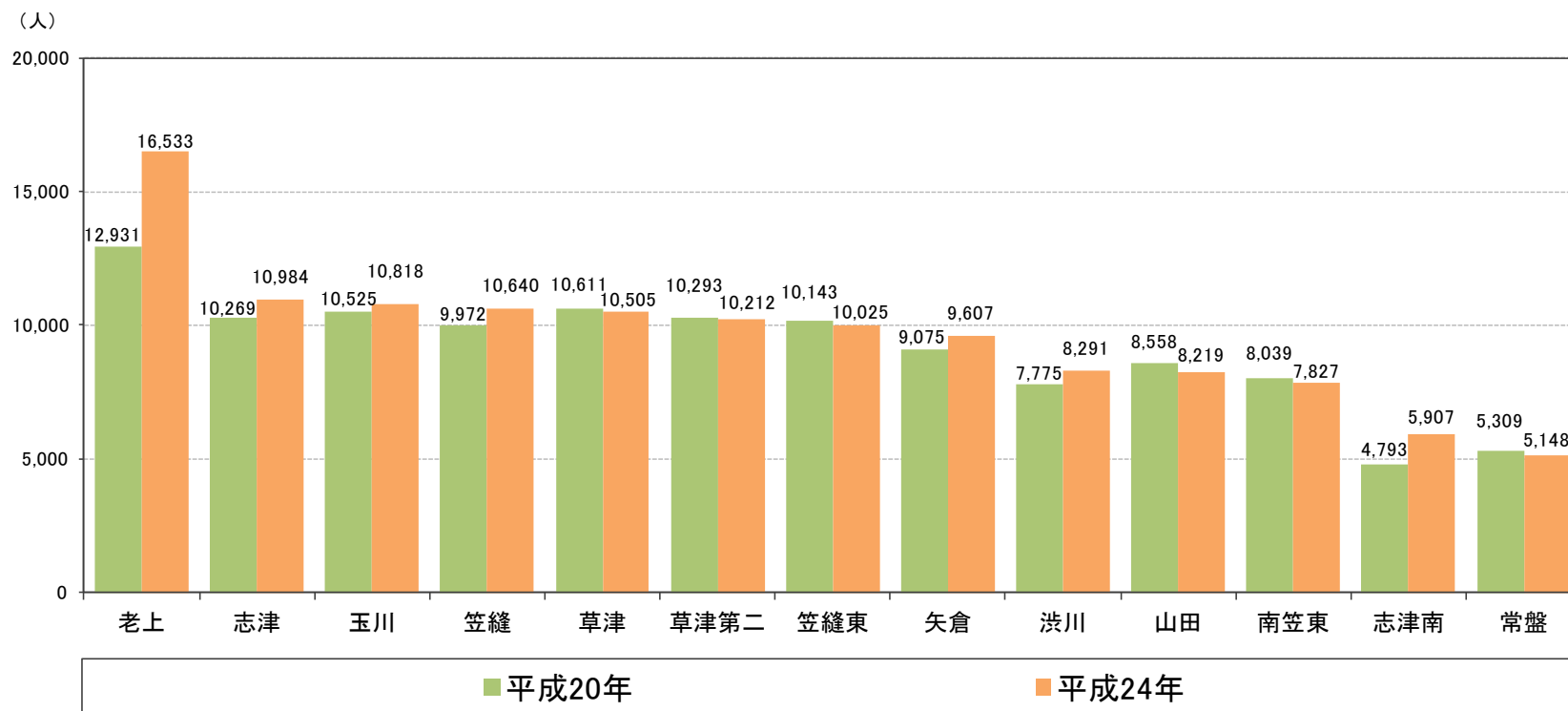
0歳時人口は②により推計

1歳以上人口は①により、変化率を前年度人口に乗算し、推計

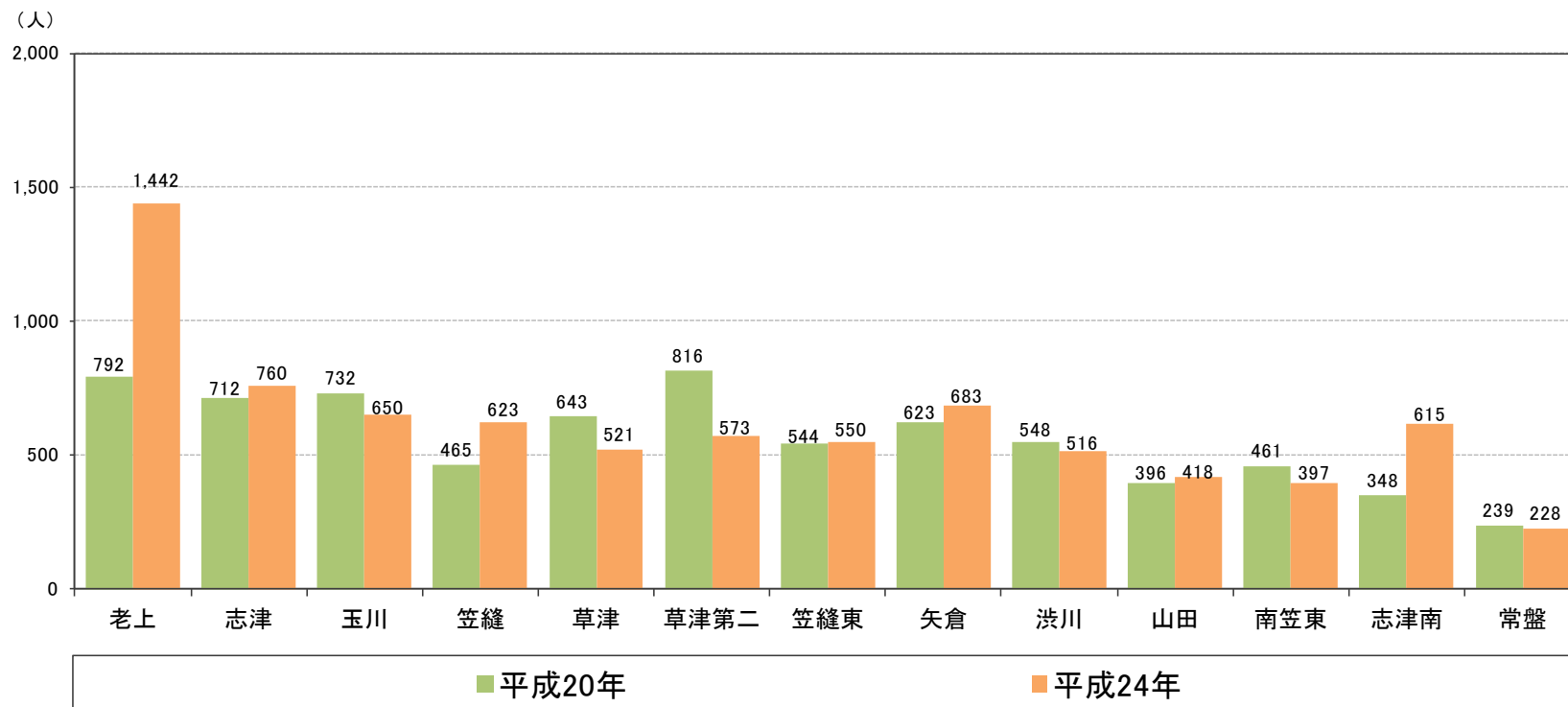
2. 現在の草津市の人口動向



3. 小学校区別の人口動向



4. 小学校区別の就学前人口の動向



5. まとめ

- 現在、総人口と就学前人口は緩やかな増加傾向。今後も現在の動向が続けば、引き続き増加が見込まれる。
- 現在、就学前人口は緩やかな増加傾向であるが、合計特殊出生率が減少傾向にあり、今後就学前人口が減少していくことが予測される。
- 現在、小学校区別の人口、就学前人口には較差が生じている。今後、各地区の土地区画整理などの市街地開発の動向により、その較差はさらに拡大することも予測される。

各学区の人口動向

	人口	就学前人口		人口	就学前人口
老上小	増加	増加	矢倉小	増加	増加
志津小	増加	増加	渋川小	増加	減少
玉川小	増加	減少	山田小	減少	増加
笠縫小	増加	増加	南笠東小	減少	減少
草津小	減少	減少	志津南小	増加	増加
草津第二小	減少	減少	常盤小	減少	減少
笠縫東小	減少	増加			

人口動向に影響を与える要因の例・・・土地区画整理事業、市街地再開発事業、その他民間住宅開発

6. 人口推計に関する今後の作業

○コーホート要因法による推計

コーホート変化率法は、人口の変化にのみ焦点を当てた推計であり、現時点で、市内開発動向等の社会的に人口変動をもたらすような要素を加味したものではない。

今後は、そういった要素も反映して推計する「コーホート要因法」を用いるなどしながら、推計値の精度を高められるよう努める。

○その他

コーホート変化率法・要因法においては、実績人口の変化率や市内開発動向等による人口増減などを数的に算出・分析を行うものである。

今後の社会潮流(少子化のさらなる進行など)などの外部要因についても留意していく。